

教育プログラムの名称 : グローバル・スタディーズ
授与する学位の名称 : 学士（学術）

【教育目標】

山形大学及び人文社会科学部の教育目標を踏まえ、教育プログラム（グローバル・スタディーズ）では、人文社会科学の分野横断的な専門知識、外国語の高度な運用力、そしてグローバル化に適応できる柔軟な思考力と見識を身に付け、多文化間の相互理解に貢献することができる人材の育成を目標としています。

【卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）】

山形大学及び人文社会科学部の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）のもと、教育プログラム（グローバル・スタディーズ）では、基盤共通教育及び学部の専門教育を通じて、以下のような知識・姿勢・能力を獲得した学生に「学士（学術）」の学位を授与します。

1. 豊かな人間性と社会性

- （１） 国際的な視野や経験を持ち、グローバル化に柔軟に適応できる思考力と判断力を身に付けている。
- （２） 在学中から職業選択に関する準備を着実に進め、グローバル化した社会における将来の職業のあり方について、自分自身の首尾一貫した職業観を身に付けている。

2. 幅広い教養と汎用的技能

- （１） 外国語の高度な運用能力を持ち、自分の考えを外国語で表現する力を身に付けている。
- （２） グローバル化の進展に対応した迅速さと正確さをもって、必要な情報を収集・分析し、その成果を日本語で的確にまとめ発信することができる。

3. 専門分野の知識と技能

- （１） グローバル社会に関する広範な視野と見聞を持ち、多文化間の相互理解に貢献できる能力を身に付けている。
- （２） グローバル社会・文化を人文社会科学の分野横断的な見地から理解するための、専門的な知識や運用力を身に付けている。

【教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）】

山形大学及び人文社会科学部の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に沿って、グローバル・スタディーズコースの学生が体系的かつ主体的に学修を進めることができるように教育課程を編成し、これに従って教育を行うとともに、明確な成績評価基準によって学修の成果を評価します。

1. 教育課程の編成・実施等

- （１） 学生の海外体験を制度的に推奨し、グローバル社会に柔軟に適応できる思考力と判断力を涵養するために、海外の教育機関と連携した異文化間コミュニケーション実習や課題解決型の

実践科目を配置する。

- (2) 将来の職業選択の準備が適切にできるように、キャリア関連の科目を配置する。また、グローバル化に応じた多様なキャリア・パスについて、学生が能動的に考える機会として、インターンシップ科目を配置する。
- (3) 「読む・書く・聞く・話す」の4技能を強化するため、外国語及び日本語を用いた意見や情報の受信・発信力を磨く授業を編成する。
- (4) 1年次のデータサイエンスに関する基礎的な科目に加え、2年次以降において、社会調査法に関する科目、統計学の基礎を学ぶ科目及びデータ処理力を養成するための科目からなるジェネリックスキル科目を配置する。また、専門的な主題に関する情報の収集・分析能力を高め、論理的かつ説得力ある日本語を書く能力を育成するために、演習及び卒論演習を配置する。
- (5) グローバル社会で活躍するために必要な知識と教養を身に付け、他者や異文化への柔軟な理解力を養成するために、多様な教養科目や専門科目を編成する。また、人文・社会科学の俯瞰的かつ分野横断的な視野を養成するため、学部共通科目群及び他コースの専門基礎科目を配置する。
- (6) 国際地域社会や多文化社会に関する高度な専門知を養うため、グローバル社会・文化に関する専門基礎科目と専門展開科目による体系的教育を編成し、演習などの充実した少人数教育による専門科目を配置する。また、コース専門語学においては、基盤教育と連携しつつ語学力の強化をはかるため、英語集中クラスと2カ国語習得（英語＋他の外国語）クラスを配置する。

2. 教育方法

- (1) 授業科目のナンバリングを定めて年次配置を厳密に行い、CAP制を実施することによって、卒業までの履修期間の無理なくかつ効果的な学修を促す。
- (2) 主体的に学び続ける動機づけとなるような、実際的かつ学際的な知識と技能が身に付く教育を拡充する。
- (3) 自ら課題を見出し、その解決に向けて探究を進め、成果を表現する実践的な能力を身に付けさせるため、学生が主体となる能動的な授業を拡充する。

3. 教育評価

- (1) 学修の成果を厳格に評価するため、カリキュラムの点検を不断に行い、明確な成績評価方法と基準を策定する。
- (2) 高年次実施する基盤力テストを活用し、学修の到達度を評価する。
- (3) 学生による授業評価アンケートや授業改善ワークショップなどの実施により、学生の主体的かつ自律的な学修を促すことを通じ、良識ある市民に求められる知識・技能・実践能力を評価する。
- (4) 卒業研究に進むための要件としてプロポーザルの提出を義務付け、その内容の審査によって専門基盤力を評価する。